

H27-B-1 14.84~28.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	適正化された記事内容		
32	14.84	24.44	CL ・全体に10~30°の低角度割れ目主体で、一部で割れ目ぞいに風化で砂状化が進んでいる。 18.30m以深では随々マンガン鉱染伴う。 15.22~15.44mは硬さCの硬質岩片が残留している	-	-	-	14.84	24.44	14.84~24.44m: CL 全体に10~30°の低角度割れ目主体で、一部で割れ目ぞいに風化で砂状化が進んでいる。 18.30m以深では随々マンガン鉱染伴う。 15.22~15.44m: 硬さCの硬質岩片が残留している。	-	
33	-	-	-	15.22	15.44	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	-	15.22	15.44	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	-
34	15.00	17.62	割れ目周辺に硬さ「E」が部分的に分布する	-	-	-	16.00	17.62	16.00~17.62m: 割れ目周辺に硬さ「E」が部分的に分布する。	-	
35	16.75	16.84	φ30~40 mmの硬さ「C」の硬質岩片が塊状に分布	-	-	-	16.75	16.84	16.75~16.84m: 径30~40mmの硬さ「C」の硬質岩片が塊状に分布。	-	
36	17.44	17.44	割れ目ぞいに幅10~40m/mが砂状化する	17.44	17.44	傾斜15°の割れ目ぞいに幅1~4m/mが砂状化する	17.44	17.44	17.44m: 傾斜15°の割れ目ぞいに幅1~4mmが砂状化する。	-	
37	18.10	22.19	上下に比べ割れ目少なくなる(IV)	-	-	-	18.10	22.19	18.10~22.19m: 上下に比べ割れ目少なくなる(コアの形状IV)。	-	
38	18.31	18.31	幅10m/mマンガン鉱染が脈状に分布、黒褐色化する	18.31	18.31	傾斜10° 幅10m/mマンガン鉱染が脈状に分布、黒褐色化する	18.31	18.31	18.31m: 傾斜10°で幅10mmマンガン鉱染が脈状に分布、黒褐色化する。	-	
39	19.60	19.60	割れ目ぞいに幅10m/m砂状化する	19.60	19.60	傾斜12°の割れ目ぞいに幅10m/m砂状化する	19.60	19.60	19.60m: 傾斜12°の割れ目ぞいに幅10mm砂状化する。	-	
40	-	-	-	20.37	20.42	傾斜10°程度の割れ目に沿って暗褐色の岩片混じり粘土を幅2~10mmで挟む。一部は不規則な割れ目中に流入する。	20.37	20.42	20.37~20.42m: 傾斜10°の割れ目ぞいに幅2~10mmで暗褐色の岩片混じり粘土を挟む。一部は不規則な割れ目に流入する。	-	
41	21.16	22.01	割れ目ぞいに幅10~30m/mで砂状化する部分がある	-	-	-	21.16	22.01	21.16~22.01m: 割れ目ぞいに幅10~30mmで砂状化する部分がある。	-	
42	22.01	22.19	硬さ「C」の硬質岩片が残留	-	-	-	22.01	22.19	22.01~22.19m: 硬さ「C」の硬質岩片が残留。	-	
43	-	-	-	22.01	22.19	(コアの硬さ欄)Cランク	22.01	22.19	(コアの硬さ欄)Cランク	-	
44	23.05	23.80	20~30°と70~90°の割れ目が交差し一部で交差部周辺でφ10 m/m程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している	23.05	23.80	20~30°と70~90°の割れ目が交差し一部で交差部周辺でφ10 m/m程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している。 割れ目面にマンガン汚染がみられる	23.05	23.80	23.05~23.80m: 20~30°と70~90°の割れ目が交差し一部で交差部周辺で径10mm程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している。割れ目面にマンガン汚染がみられる。	-	
45	-	-	-	23.16	23.16	傾斜12°の割れ目に沿って幅15mm程度で緑色化している。	23.16	23.16	23.16m: 傾斜12°の割れ目ぞいに幅15mmで緑色化する。	-	
46	24.16	24.16	以深では硬さ「E」も含む全体に脆い岩片多い	-	-	-	24.16	24.16	24.16m以深では硬さ「E」も含む、全体に脆い岩片多い。	-	
47	24.44	24.71	D 風化で土砂状を呈する 岩組織や割れ目はほぼ消滅している	-	-	-	24.44	24.71	24.44~24.71m: D 風化で土砂状を呈する。 岩組織や割れ目はほぼ消滅している。	-	
48	24.44	24.71	(岩線区分欄)D	24.44	24.71	(岩線区分欄)CL	24.44	24.71	(岩線区分欄)CLに含める	-	
49	24.71	26.52	CL 10~30° 割れ目が主体で割れ目ぞいの一部は砂状化する	-	-	-	24.71	26.52	24.71~26.52m: CL 10~30° 割れ目が主体で割れ目ぞいの一部は砂状化する。	-	
50	-	-	-	25.03	25.03	傾斜16°の割れ目ぞいに幅7mmの石英脈、マンガン脈を伴う。周辺は黄褐色化する。	25.03	25.03	25.03m: 傾斜16°の割れ目ぞいに幅7mmの石英脈、マンガン脈を伴う。周辺は黄褐色化する。	-	
51	26.00	26.00	29m以深では割れ目ぞいの砂状化が更に進む	26.00	26.00	26.00m以深では割れ目ぞいの砂状化が更に進む	26.00	26.00	26.00m以深では割れ目ぞいの砂状化が更に進む。	-	
52	26.62	27.60	D 27.00m以深では割れ目や岩組織は残留するが27.10m以深では両者ともほぼ消滅し砂状で採取されている。(27.00~27.10mは割削時に流失)	-	-	-	26.62	27.60	26.62~27.60m: D 27.00m以深では割れ目や岩組織は残留するが、27.10m以深では両者ともほぼ消滅し砂状で採取されている。 27.00~27.10m: コア欠如。	-	
53	27.60	28.00	CL 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目を含み細片化し脆いものも含まれている	-	-	-	27.60	28.00	27.60~28.00m: CL 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目を含み細片化し脆いものも含まれている。	-	

H27-B-1 28.00~34.00m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度		下端深度	適正化すべき記事内容	記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
54	28.00	28.19	ノンコア(D)	28.00	28.19	コア欠如	・用語の統一(ノンコア⇒コア欠如) ・コア欠如区間のため、岩級の記載は削除した	28.00	28.19	28.00~28.19m:コア欠如	-	
55	28.00	28.19	(岩級区分欄)D	28.00	28.19	(岩級区分欄)空欄	・コア欠如区間のため、空欄にした	28.00	28.19	(岩級区分欄)空欄	-	
56	28.19	28.61	CL 割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む	-	-	-	-	28.19	28.61	28.19~28.61m:CL 割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む。	-	
57	28.61	28.68	ノンコア(D)	28.61	28.68	コア欠如	・用語の統一(ノンコア⇒コア欠如) ・コア欠如区間のため、岩級の記載は削除した	28.61	28.68	28.61~28.68m:コア欠如	-	
58	28.61	28.68	(岩級区分欄)D	28.61	28.68	(岩級区分欄)空欄	・コア欠如区間のため、空欄にした	28.61	28.68	(岩級区分欄)空欄	-	
59	28.68	28.84	CL 割れ目ぞいで砂状化する	-	-	-	-	28.68	28.84	28.68~28.84m:CL 割れ目ぞいで砂状化する。	-	
60	28.84	30.74	D 締った砂状化を呈する φ10~30m/m程度の硬さ「D」岩片が塊状に締った砂状部中に分布し砂礫状を呈する 30m以深では岩片量が多くなる	28.84	30.74	D 締った砂状化を呈する φ10~30m/m程度の硬さ「D」岩片が塊状に締った砂状部中に分布し砂礫状を呈する 30m以深では岩片量が多くなる	・岩片量に差が見られないため削除した	28.84	30.74	28.84~30.74m:D 締った砂状化を呈する。径10~30mm程度の硬さ「D」岩片が塊状に締った砂状部中に分布し砂礫状を呈する。	-	
61	-	-	-	29.00	29.09	コア欠如	・ノンコア区間を追記した	29.00	29.09	29.00~29.09m:コア欠如	-	
62	30.17	30.50	マンガン鉱染伴う。	-	-	-	-	30.17	30.50	30.17~30.50m:マンガン鉱染伴う。	-	
63	30.30	30.53	石英多く露出(一部は変質による2次石英と推定される)	-	-	-	-	30.30	30.53	30.30~30.53m:石英多く露出(一部は変質による2次石英と推定される)。	-	
64	-	-	-	30.38	30.38	傾斜5°、幅1~3mmの石英脈を不連続に挟む	・周囲と異なる特徴を追記した	30.38	30.38	30.38m:傾斜5°で幅1~3mmの石英脈を不連続に挟む。	-	
65	30.74	32.48	CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む 上端側の30.74~31.30m間は風化による黄褐色化が進むが軟化は伴わない	30.74	32.48	CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む 上端側の30.74~31.30m間は風化汚染による黄褐色化が進むが軟化は伴わない	・寒湿に合わせて変更した(風化⇒酸化汚染)	30.74	32.48	30.74~32.48m:CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む。 上端側の30.74~31.30m間は酸化汚染による黄褐色化が進むが軟化は伴わない。	-	
66	31.05	31.23	熱水変質による粘土化変質、珪化変質が著しく、前者では白色茶粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン鉱染と風化も伴わない全体として黄褐色の濃い色調を呈する	31.05	31.23	熱水変質による粘土化変質、珪化変質が著しく、前者では白色茶粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン鉱染と酸化汚染も伴わない全体として黄褐色の濃い色調を呈する	・寒湿に合わせて変更した(風化⇒酸化汚染)	31.05	31.23	31.05~31.23m:熱水変質による粘土化変質、珪化変質が著しく、前者では白色茶粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン鉱染と酸化汚染も伴い全体として黄褐色の濃い色調を呈する。	-	
67	-	-	-	31.47	31.47	傾斜35°、幅5~8mmの灰褐色の砂混じりシルトを挟む	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	31.47	31.47	31.47m:傾斜35°で幅5~8mmの灰褐色の砂混じりシルトを挟む。	-	
68	31.70	32.20	割れ目ぞいの砂状化が進み「砂混じり岩片状」を呈する。岩片はφ10~30m/m程度の硬さ「D」で残留するが全体にやや上下に比べ異なる	-	-	-	-	31.70	32.20	31.70~32.20m:割れ目ぞいの砂状化が進み「砂混じり岩片状」を呈する。岩片はφ10~30mm程度の硬さ「D」で残留するが全体にやや上下に比べ異なる。	-	
69	32.48	32.70	D 岩組織と割れ目はほぼ残留している。	-	-	-	-	32.48	32.70	32.48~32.70m:D 原岩組織と割れ目はほぼ残留している。	-	
70	32.48	32.70	(岩級区分欄)D	32.48	32.70	(岩級区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、層間の岩級に含めた	32.48	32.70	(岩級区分欄)CLに含める	-	
71	32.70	34.54	CL 割れ目ぞいに厚さ1~2m/m程度で薄く砂状化部を含み、一部で砂状化が進行する部分もある。白濁化した長石多い。割れ目は10~20°が主体、一部で70~80°割れ目と交差	-	-	-	-	32.70	34.54	32.70~34.54m:CL 割れ目ぞいに厚さ1~2m/m程度で薄く砂状化部を挟む。一部で砂状化が進行する部分もある。白濁化した長石多い。割れ目は10~20°が主体、一部で70~80°割れ目と交差。	-	
72	33.17	33.17	15°割れ目が75°割れ目を切っている(変位量10m/m、右ズレ)	33.17	33.17	15°割れ目と75°割れ目が一部は交差し、一部は75°割れ目が15°割れ目で止まっている。切っ張りのうち、深い側の75°割れ目は15°割れ目と交差している(変位量10m/m、右ズレ)。15°割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、15°割れ目に系統的な割れ目も存在しない。	・15°割れ目でずれているように見える75°割れ目のうち、深い側の75°割れ目は15°割れ目と交差している。一方、深い側の75°割れ目は15°割れ目で止まっている。変位量の記載を削除した。 ・15°割れ目及びその周辺の状況を追記した	33.17	33.17	33.17m:15°割れ目と75°割れ目が一部は交差し、一部は75°割れ目が15°割れ目で止まっている。15°割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、15°割れ目に系統的な割れ目も存在しない。	-	
73	33.40	33.40	15°割れ目ぞいに厚さ20m/m砂状化	-	-	-	-	33.40	33.40	33.40m:15°割れ目ぞいに厚さ20mm砂状化。	-	
74	33.76	33.76	5°割れ目ぞいに厚さ10m/m砂状化	-	-	-	-	33.76	33.76	33.76m:5°割れ目ぞいに厚さ10mm砂状化。	-	
75	34.00	34.00	34.00m以深、密着度の低い中着割れ目多くハンマーの打撃で崩片化する。また、割れ目も消滅しかかっている	34.00	34.00	34.00m以深、密着度の低い中着割れ目多くハンマーの打撃で崩片化する。また、割れ目も消滅しかかっている	・中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した	34.00	34.00	34.00m以深、密着度の低い潜在割れ目多くハンマーの打撃で崩片化する。また、割れ目も消滅しかかっている。	-	

H27-B-1 34.03~42.41m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事				
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事 適正化した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
76	34.03	34.03	40' 幅2~3 m/m石英脈、密着して連続 (岩線区分欄)D	-	-	-	34.03	34.03	34.03m:40' 幅2~3m石英脈、密着して連続。	-
77	34.54	34.59	34.54	34.59	(岩線区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩線に含めた	34.54	34.59	(岩線区分欄)CLに含める	-
78	34.54	34.59	34.54	34.59	破砕帯・主せん断面34.59m(11') 直線的な細粒部伴(下線)	・用長の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した	34.54	34.59	●34.54~34.59m:破砕部 34.54~34.59m:粘土混じり岩片状部(H) 上端10~40'で大きく湾曲、下端11'で直線的に連続。径5mmの花崗斑岩岩片主体で岩片間は粘土状~砂状を呈する。色調はにぶい黄褐色を呈する。幅40~50mm。 上下端とも11'で直線的に連続。径1mmの石英粒を10%程度含む。灰黄褐色を呈する。幅3~4mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
79	34.54	34.59	34.54	34.59	H) 上端10~40'で大きく湾曲、下端11'で直線的に連続。径5mm/mGp岩片主体で岩片間は粘土状~砂状で「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR6/3)厚さ40~50m/m	・用長の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した ・硬軟、境界部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	34.54	34.59	H) 上端10~40'で大きく湾曲、下端11'で直線的に連続。径5mm/mGp岩片主体で岩片間は粘土状~砂状で「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR6/3)厚さ40~50m/m	・硬軟、境界部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。
80	34.59	34.59	34.59	34.59	Hc-2 上下端とも11'で直線的に連続。φ1m/m石英粒を10%程度含む。色調は灰黄褐色(10YR5/2)、厚さ3~4m/m	・破砕部内物質を追記した ・硬軟を追記した	34.59	34.59	Hc-2 上下端とも11'で直線的に連続。φ1m/m石英粒を10%程度含む。硬混じり粘土状を呈する。色調は灰黄褐色(10YR5/2)、厚さ3~4m/m やや軟質	-
81	34.59	35.37	34.59	35.37	CL 細片化し、易い砂着割れ目が多い	・2系統の割れ目が分布することは周囲と異なる状況であるため追記した	34.59	35.37	34.59~35.37m:CL 細片化し、易い砂着割れ目が多い。 10~30'と50~70'の割れ目がみられる。	-
82	35.37	37.15	-	-	D 軟化著しく硬さ[E]主体であるが岩組織や割れ目はほぼ残留している。部分的に硬質岩片を中右的に含む	-	35.37	37.15	35.37~37.15m:D 軟化著しく硬さ[E]主体であるが原岩組織や割れ目はほぼ残留している。部分的に硬質岩片を中右的に含む。	-
83	33.00	36.00	33.00	36.00	コアなし(OTスキャン?)	・不要な記載のための削除した	-	-	-	-
84	36.09	36.26	-	-	36.09~36.26m、36.53~36.62mには硬さ[C]の硬質部が残留する。	-	36.09	36.26	36.09~36.26m、36.53~36.62m:硬さ[C]の硬質部が残留する。	-
85	-	-	36.09	36.26	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	・記事種の硬さの記載に合わせて追記した ・併せて風化欄にγランクを追記した	36.09	36.26	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	-
86	-	-	36.53	36.62	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	・記事種の硬さの記載に合わせて追記した ・併せて風化欄にγランクを追記した	36.53	36.62	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	-
87	36.70	36.70	-	-	36.70m以深でφ10~30m/mの硬さ[D]ない[C]の岩片が塊状に残留する。	-	36.70	36.70	36.70m以深でφ10~30mmの硬さ[D]ない[C]の岩片が塊状に残留する。	-
88	37.15	42.00	-	-	CL 0~30' 割れ目主体で、割れ目自体の一部で砂状化する部分も含む。	-	37.15	42.00	37.15~42.00m:CL 0~30' 割れ目主体で、割れ目自体の一部で砂状化する部分も含む。	-
89	37.80	37.80	37.80	37.80	5' 割れ目自体幅10~20m/m砂状化、微細な白雲母が露出している。	・鉱物の色や形から白雲母と判断し変更した	37.80	37.80	37.80m:5' 割れ目自体幅10~20mm砂状化、微細な白雲母が露出している。	-
90	38.56	38.74	-	-	φ20~30mの硬さ[C]岩片が残留する。	-	38.56	38.74	38.56~38.74m:径20~30mmの硬さ[C]岩片が残留する。	-
91	39.26	39.70	-	-	硬さ[C]のφ30~50m/m岩片が多く残留する。	-	39.26	39.70	39.26~39.70m:硬さ[C]の径30~50mm岩片が多く残留する。	-
92	39.90	39.90	-	-	幅10~20m/m、0'で淡緑色部が分布(緑泥石濃集部と推定される)。	-	39.90	39.90	39.90m:幅10~20mm、0'で淡緑色部が分布(緑泥石濃集部と推定される)。	-
93	40.32	40.77	40.32	40.77	割れ目自体の砂状化進む。硬さ[D]ない[C]の岩片がそのなかに残留し、全体として砂塊状を呈し、上下に比べやや脆くなる。 低角度の割れ目の他、60~80'の割れ目も分布する。	・2系統の割れ目が分布することは周囲と異なる状況であるため追記した	40.32	40.77	40.32~40.77m: 割れ目自体の砂状化進む。硬さ[D]ない[C]の岩片がそのなかに残留し、全体として砂塊状を呈し、上下に比べやや脆くなる。低角度の割れ目の他、60~80'の割れ目も分布する。	-
94	41.50	41.50	41.50	41.50	2' 割れ目自体幅30m/m淡緑色化(緑泥石化)し、φ0.5~1m/mの微細な白雲母が露出している。	・鉱物の色や形から白雲母と判断し変更した	41.50	41.50	41.50m:2' 割れ目自体幅30mm淡緑色化(緑泥石化)し、径0.5~1mmの微細な白雲母が露出している。	-
95	41.55	42.00	-	-	コアチューブ引上時に壊され塊状コア化したもの、硬さは「D」	-	41.55	42.00	41.55~42.00m: コアチューブ引上時に壊され塊状コア化したもの。硬さは「D」。	-
96	42.00	42.41	-	-	D 一部の割れ目と岩組織は残留している。	-	42.00	42.41	42.00~42.41m:D 一部の割れ目と原岩組織は残留している。	-

H27-B-1 42.24~44.53m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事							
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	記事						
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	記事						
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	記事						
		コア観察カードから正しく転記されているか?	通知変更した情報が正しく転記されているか?		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)						
97	42.24	42.28	上端15'、下端18' 割れ目に囲まれ、厚さ30mm軟質・淡黄色粘土化(変質度4) ・幅1m/m白色粘土脈も所々に点在する。	42.24	42.28	上端15'、下端18' 割れ目に囲まれ、厚さ30mm軟質・淡黄色粘土化(変質度4) 上端側は緑色化している ・幅1m/m白色粘土脈も所々に点在する。マンガン鉱染がみられる。	42.24	42.28	42.24~42.28m:上端15'、下端18' 割れ目に囲まれ、厚さ30mm軟質・淡黄色粘土化(変質度4)。上端側は緑色化している。 幅1mm白色粘土脈も所々に点在する。マンガン鉱染がみられる。		
98	42.41	42.49	破砕帯(三せん断面42.43m)	42.41	42.49	破砕帯(三せん断面42.43m) 最新活動面は42.41mから42.43mの可能性はある	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面は肉眼で判断できないため削除した	42.41~42.43m:破砕部 42.41~42.43m:細粒じり粘土状部(Hc-2) 上端側は83' 54' で波打って連続。軟質で、径1~2mmの石英粒はわずかな。花崗斑岩岩片を計10%程度含む。幅10~15mm。 42.43~42.45m:礫質粘土状部(Hb) 上端54'、下端35' でいずれも波打って連続。軟質で、径1~2mmの石英粒。径5~10mmの粘土化花崗斑岩岩片を計20~30%含む。灰白色を呈する。幅5~10mm。 42.45~42.49m:粘土溜り岩片状部(Hj) 上端35'、下端18' でいずれも波打って連続。下端の一部はやや不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。にふい黄褐色を呈する。幅40mm。	・破砕、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。		
99	42.41	41.43	Hc-2 上下端各々63'、54' で波打って連続。φ1~2m/m石英粒はわずかな。Gp岩片計10%程度含む軟質粘土(ガウジ)。色調はにふい黄褐色(10YR5/3)。厚さ10~15m/m	42.41	42.43	Hc-2 上下端各々63'、54' で波打って連続。φ1~2m/m石英粒はわずかな。Gp岩片計10%程度含む軟質な粘土溜り粘土からなる砂状砂。色調はにふい黄褐色(10YR5/3)。厚さ10~15m/m	・下端深度の誤記 ・破砕部内物質を追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-2)に含むで表現)	42.41	42.49	42.41~42.49m:礫質粘土状部(Hb) 上端54'、下端35' でいずれも波打って連続。軟質で、径1~2mmの石英粒。径5~10mmの粘土化花崗斑岩岩片を計20~30%含む。灰白色を呈する。幅5~10mm。 42.45~42.49m:粘土溜り岩片状部(Hj) 上端35'、下端18' でいずれも波打って連続。下端の一部はやや不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。にふい黄褐色を呈する。幅40mm。	
100	41.43	42.45	Hb 上端54'、下端35' でいずれも波打って連続。φ1~2m/m石英粒。φ5~10m/m粘土化Gp岩片計20~30%含む軟質な礫質粘土状。色調は灰白色(2.5Y8/2)。厚さ5~10m/m	42.43	42.45	Hb 上端54'、下端35' でいずれも波打って連続。φ1~2m/m石英粒。φ5~10m/m粘土化Gp岩片計20~30%含む軟質な礫質粘土状を呈する。色調は灰白色(2.5Y8/2)。厚さ5~10m/m 灰白色粘土は連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。	・上端深度の誤記 ・細粒部の連続性を追記した ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	42.41	42.49	42.41~42.49m:礫質粘土状部(Hb) 上端54'、下端35' でいずれも波打って連続。軟質で、径1~2mmの石英粒。径5~10mmの粘土化花崗斑岩岩片を計20~30%含む。灰白色を呈する。幅5~10mm。 42.45~42.49m:粘土溜り岩片状部(Hj) 上端35'、下端18' でいずれも波打って連続。下端の一部はやや不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。にふい黄褐色を呈する。幅40mm。	
101	42.45	42.49	Hj 上端35'、下端18' でいずれも波打って連続。下端の一部はやや不明瞭。φ5~20m/mの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。全体的に「粘土溜り岩片状」を呈する。色調はにふい黄褐色(10YR5/3)。厚さ40m/m	42.45	42.49	Hj 上端35'、下端18' でいずれも波打って連続。下端の一部はやや不明瞭。φ5~20m/mの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。全体的に「粘土溜り岩片状」を呈する。色調はにふい黄褐色(10YR5/3)。厚さ40m/m やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	・破砕、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
102	42.49	44.24	D 著しく軟化するが岩組織と割れ目の一部は残留している。	42.49	44.24	D 著しく軟化するが岩組織と割れ目の一部は残留している。10~30°及び60~80°程度の割れ目が認められる。	・2系統の割れ目が分布することは周囲と異なる状況であるため追記した	42.49	44.24	42.49~44.24m:D 著しく軟化するが原岩組織と割れ目の一部は残留している。傾斜10~30°及び60~80°程度の割れ目がみられる。	
103	43.45	43.48	厚さ25m/m・23' の石英脈が硬質で分布	-	-	-		43.45	43.48	43.45~43.48m:厚さ25m/m・23' の石英脈が硬質で分布。	
104	44.24	44.53	破砕帯(三せん断面44.31m)	44.24	44.53	破砕部(最新活動面44.31m) 直線的な粘土を伴う	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した	44.24	44.53	44.24~44.53m:破砕部 44.24~44.31m:粘土質礫状部(Hb) 上端、幅1mm灰赤色軟質粘土で5~13' で湾曲して、下端35' で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m(最大25m/m)Gp岩片を30%程度含む粘土質礫状を呈する。やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。半面結状の「礫質粘土」。色調は灰黄褐色(2.5Y7/2)。厚さ45~85m/m。 44.31m:粘土状部(Hc-1) 上下端とも35' で直線的に連続。軟質で、径1mmの石英粒をこわす(5以下)含む軟質な粘土からなる砂状砂。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。色調は灰黄褐色(10YR4/2)。厚さ1~2m/m	・破砕、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
105	44.24	44.31	Hb 上端、幅1m/m灰赤色軟質粘土で5~13' で湾曲して、下端35' で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m(最大25m/m)Gp岩片を30%程度含む粘土質礫状を呈する。やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。半面結状の「礫質粘土」。色調は灰黄褐色(2.5Y7/2)。厚さ45~85m/m	44.24	44.31	Hb 上端、幅1m/m灰赤色軟質粘土で5~13' で湾曲して、下端35' で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m(最大25m/m)Gp岩片を30%程度含む粘土質礫状を呈する。やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。半面結状の「礫質粘土」。色調は灰黄褐色(2.5Y7/2)。厚さ45~85m/m	・破砕部内物質を追記した ・下端の直線性について、Hc-1の上端と不整合であったため、コアと整合する直線的に変更した ・岩片を主体とすることから「粘土質礫状部」に変更した	44.24	44.53	44.24~44.53m:破砕部 44.24~44.31m:粘土質礫状部(Hb) 上端、幅1mm灰赤色軟質粘土で5~13' で湾曲して、下端35' で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10mm(最大25mm)花崗斑岩岩片を30%程度含む。灰黄色を呈する。幅45~85mm。 44.31m:粘土状部(Hc-1) 上下端とも35' で直線的に連続。軟質で、径1mmの石英粒をこわす(5以下)含む。灰黄褐色を呈する。幅1~2mm。 44.31~44.53m:粘土溜り岩片状部(Hj) 上端35' で直線的に、下端70' で波打って連続。径5mm前後の粘土化した花崗斑岩岩片と岩片間は白色軟質の脈状~横状粘土脈からなる。灰褐色~淡黄色を呈する。幅140~200mm。	
106	44.31	44.31	Hc-1 上下端とも35' で直線的に連続。φ1m/mの石英粒をこわす(5以下)含む軟質な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR4/2)。厚さ1~2m/m	44.31	44.31	Hc-1 上下端とも35' で直線的に連続。φ1m/mの石英粒をこわす(5以下)含む軟質な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR4/2)。厚さ1~2m/m	・表現の統一(ガウジ→Hc-1)に含むで表現) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	44.24	44.53	44.24~44.53m:破砕部 44.24~44.31m:粘土質礫状部(Hb) 上端、幅1mm灰赤色軟質粘土で5~13' で湾曲して、下端35' で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10mm(最大25mm)花崗斑岩岩片を30%程度含む。灰黄色を呈する。幅45~85mm。 44.31m:粘土状部(Hc-1) 上下端とも35' で直線的に連続。軟質で、径1mmの石英粒をこわす(5以下)含む。灰黄褐色を呈する。幅1~2mm。 44.31~44.53m:粘土溜り岩片状部(Hj) 上端35' で直線的に、下端70' で波打って連続。径5mm前後の粘土化した花崗斑岩岩片と岩片間は白色軟質の脈状~横状粘土脈からなる。灰褐色~淡黄色を呈する。幅140~200mm。	
107	44.31	44.53	Hj 上端35' で直線的に、下端70' で波打って連続。φ5m/m前後の粘土化したGp岩片と岩片間は白色軟質の脈状~横状粘土脈からなる。粘土溜り岩片状からなる。色調は灰褐(7.5Y6/2)~淡黄(2.5Y8/3)。厚さ140~200m/m	44.31	44.53	Hj 上端35' で直線的に、下端70' で波打って連続。φ5m/m前後の粘土化したGp岩片と岩片間は白色軟質の脈状~横状粘土脈からなる。粘土溜り岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5Y6/2)~淡黄(2.5Y8/3)。厚さ140~200m/m やや軟質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	・破砕、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				

H27-B-1 44.53~46.12m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事						
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)					
上端深度	下端深度	コア観察カードが正しく転記されているか?	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか?	上端深度	下端深度	適正化した記事内容		
108	44.53	44.83	破砕帯(主せん断面44.66m)	44.53	44.83	破砕帯(最新活動面44.66m) 最も直線的な粘土状部	-用語の統一(破砕帯→破砕部) -最新活動面という用語に統一 -最新活動面の性状を追記した	●44.53~44.83m:破砕部 44.53~44.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5~10mmの粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55mm。 44.66~44.83m:粘土状部(Hc-1) 上端65°で直線的に連続。下端85°で一部波打って連続。軟質で、径1mmの石英粒ごく少量(5%以下)含む。上下端側に直線的なせん断面と同方向に幅1~2mm、長さ5~10mmの脈状のマンガン鉱染部を伴う。灰褐色を呈する。幅4~5mm。 44.88~44.70m:礫質粘土状部(Hb) 上端65°で一部波打って、下端50~70°で湾曲して連続。軟質で、径1mmの石英粒ごく少量(5%以下)含む。径2mm未満。径3~5mm粘土化岩片を計20~30%含む半面結核の礫質粘土状を呈する。色調は明赤灰(2.5Y7/2)~灰白色(5YR8/1)、厚さ10~20mm。 44.70~44.83m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1mm以下の灰褐色(10YR4/2)軟質粘土脈。径5~10mm粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土脈からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5YR6/2)~淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ20~30mm。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が存在する。	●44.53~44.83m:破砕部 44.53~44.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5~10mmの粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55mm。 44.66~44.83m:粘土状部(Hc-1) 上端65°で直線的に連続。下端85°で一部波打って連続。軟質で、径1mmの石英粒ごく少量(5%以下)含む。上下端側に直線的なせん断面と同方向に幅1~2mm、長さ5~10mmの脈状のマンガン鉱染部を伴う。灰褐色を呈する。幅4~5mm。 44.88~44.70m:礫質粘土状部(Hb) 上端65°で一部波打って、下端50~70°で湾曲して連続。軟質で、径1mmの石英粒ごく少量(5%以下)含む。径2mm未満。径3~5mm粘土化岩片を計20~30%含む。明赤灰色~灰白色を呈する。幅10~20mm。 44.70~44.83m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1mm以下の灰褐色軟質粘土脈。径5~10mm粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土脈からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)~淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ20~30mm。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が存在する。灰褐色~淡黄色を呈する。幅20~50mm。	-硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
109	44.53	44.66	Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5~10mm粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55mm。	44.53	44.66	Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5~10mm粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55mm。 やや軟質で含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	-硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した			
110	44.66	44.68	Hc-1 65°で上端直線的、下端は一部で波打って連続。径1mm/m石英粒ごく少量(5%以下)含む礫質粘土(ガウジ)。上下端側に直線的なせん断面と同方向に幅1~2mm、長さ5~10mmの脈状のマンガン鉱染部を伴う。色調は灰褐色(10YR4/2)、厚さ4~5mm/m	44.66	44.68	Hc-1 65°で上端直線的、下端は一部で波打って連続。径1mm/m石英粒ごく少量(5%以下)含む礫質粘土からなる(ガウジ)。上下端側に直線的なせん断面と同方向に幅1~2mm、長さ5~10mmの脈状のマンガン鉱染部を伴う。色調は灰褐色(10YR4/2)、厚さ4~5mm/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない	-表現の統一(ガウジ→Hc-1)で表現 -主せん断面を直線的なせん断面に変更した -原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	44.53	44.83	
111	44.68	44.70	Hb 上端85°で一部波打って、下端50~70°で湾曲して連続。径2mm/m石英粒径3~5mm/m粘土化岩片を計20~30%含む半面結核の礫質粘土状を呈する。色調は明赤灰(2.5Y7/2)~灰白色(5YR8/1)、厚さ10~20mm。	44.68	44.70	Hb 上端65°で一部波打って、下端50~70°で湾曲して連続。径2mm/m石英粒径3~5mm/m粘土化岩片を計20~30%含む半面結核の礫質粘土状を呈する。色調は明赤灰(2.5Y7/2)~灰白色(5YR8/1)、厚さ10~20mm。 やや硬質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、連続性及び直線性が高い。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない	-硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した -用語の統一(半面結核→やや硬質)			
112	44.70	44.83	Hj 上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1mm以下の灰褐色(10YR4/2)軟質粘土脈。径5~10mm粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土脈からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5YR6/2)~淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ20~30mm。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が存在する。	44.70	44.83	Hj 上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1mm以下の灰褐色(10YR4/2)軟質粘土脈。径5~10mm粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土脈からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5YR6/2)~淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ20~30mm。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が存在する。 やや軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	-硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した			
113	44.83	45.36	D 幅1m/m前後の軟質白色粘土脈が多い。	44.83	45.36	D 強く変質し、網目状の灰白色粘土が分布。原岩組織は残留する。	-性状を追記した	44.83	45.36	44.83~45.36m:D 強く変質し、網目状の灰白色粘土が分布する。原岩組織は残留する。
114	45.36	45.39	破砕帯(主せん断面45.39m)	45.35	45.39	破砕帯(主せん断面46.39m) 最新活動面は45.35mの粘土の上端か下端の可能性がある	-用語の統一(破砕帯→破砕部) -最新活動面という用語に統一 -最新活動面は肉眼で判断できないため削除した	●45.36~45.39m:破砕部 45.36~45.39m:粘土混じり岩片状部(H) 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR7/3)、厚さ5~10mm。 45.39m:礫質粘土状部(Hc-2) 上下端とも65°で直線的に連続。一部で幅1mmの2本に分岐・収れんする。やや軟質で、径1~2mm石英粒5~10%含む。灰褐色を呈する。幅2mm。	-硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
115	45.36	45.39	Hj 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR7/3)、厚さ5~10mm。	45.36	45.39	Hj 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR7/3)、厚さ5~10mm。 やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	-硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	45.36	45.39	
116	45.39	45.39	Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1mm/mの2本のガウジに分岐・収れんする。径1~2mm/m石英粒5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2mm	45.39	45.39	Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1mm/mの2本のガウジに分岐・収れんする。径1~2mm/m石英粒5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2mm	-表現の統一(ガウジ→Hc-2)で表現 -粘土の硬軟について見直しした			
117	45.39	46.12	D 幅1m/m前後の軟質白色粘土脈が多い。	45.39	46.12	D 幅1m/m前後の軟質白色粘土脈が多い。 強変質しているが母岩の組織は残留する。	-性状を追記した	45.39	46.12	45.39~46.12m:D 幅1m前後の軟質白色粘土脈が多い。強変質しているが、原岩組織は残留する。

H27-B-1 49.17~52.50m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事							
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	記事			
上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか?	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	記事		
		<input checked="" type="checkbox"/>									
129	49.17	49.27	破砕帯(主せん断面49.20m)	49.17	49.22	破砕部(最新活動面49.17m) 最も直線的な面	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・せん断面の性状から最新活動面の深度を変更し、最新活動面の性状を追記した。 ・下位の健岩部との境界が漸移的であるため、破砕部下端深度を見直した	49.17~49.22m:破砕部 49.17~49.20m:粘土質硬状部(Hb) 上端25°で波打って、下端30~36°で湾曲して連続。軟質で、上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土層を含む。径2~3mm石英粒、径5mm粘土化岩片を計20~30%含む。灰白色~明黄褐色を呈する。幅10~25mm。 49.20~49.22m:粘土状部(Hc-2) 上端30~36°、下端35~60°でいずれも湾曲して連続。軟質で、弱い線状構造がみられる。径1~2mm石英粒を5~10%含む。明黄褐色を呈する。幅7~15mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。		
130	49.17	49.20	Hb 上端25°で波打って、下端30~36°で湾曲して連続。 φ2~3m石英粒、φ5m粘土化岩片を計20~30%含む軟質な「粘土質硬状」を呈する。上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土層を含む。 色調は灰白(2.5Y8/2)~明黄褐色(10YR7/6)、厚さ10~25mm。	49.17	49.20	Hb 上端25°で波打って、下端30~36°で湾曲して連続。 φ2~3m石英粒、φ5m粘土化岩片を計20~30%含む軟質な「粘土質硬状」を呈する。上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土層を含む。 色調は灰白(2.5Y8/2)~明黄褐色(10YR7/6)、厚さ10~25mm。硬軟部は網目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	・様主体であるため粘土質硬状に変更した ・硬軟部の連続性、直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・上端に挟む粘土層を追記した	49.17	49.20	49.17~49.22m:破砕部 49.17~49.20m:粘土質硬状部(Hb) 上端25°で波打って、下端30~36°で湾曲して連続。軟質で、上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土層を含む。径2~3mm石英粒、径5mm粘土化岩片を計20~30%含む。灰白色~明黄褐色を呈する。幅10~25mm。 49.20~49.22m:粘土状部(Hc-2) 上端30~36°、下端35~60°でいずれも湾曲して連続。軟質で、弱い線状構造がみられる。径1~2mm石英粒を5~10%含む。明黄褐色を呈する。幅7~15mm。	
131	49.20	49.22	Hc-2 上端30~36°、下端35~60°でいずれも湾曲して連続。 φ1~2m石英粒を5~10%含む軟質粘土(ガウジ)、色調は明黄褐色(10YR7/6)、厚さ7~15m/m	49.20	49.22	Hc-2 上端30~36°、下端35~60°でいずれも湾曲して連続。 φ1~2m石英粒を5~10%含む軟質粘土からなる(ガウジ)、色調は明黄褐色(10YR7/6)、厚さ7~15m/m 弱い線状構造がみられる。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	・表現の統一(ガウジ→Hc-2)に含んで表現) ・内部構造について追記した。 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	49.20	49.22	49.20~49.22m:粘土状部(Hc-2) 上端30~36°、下端35~60°でいずれも湾曲して連続。軟質で、弱い線状構造がみられる。径1~2mm石英粒を5~10%含む。明黄褐色を呈する。幅7~15mm。	
132	49.22	49.27	Hj 上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。 φ2~4m石英粒、φ5~10m岩片(硬さ「D」「C」)と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として「粘土-砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰白~黄褐色(10YR6/4)、厚さ50m/m(コア長)	49.22	49.27	Hj 上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。 φ2~4m石英粒、φ5~10m岩片(硬さ「D」「C」)と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として「粘土-砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰白~黄褐色(10YR6/4)、厚さ50m/m(コア長) 上位の破砕部と比べて硬質で、径2~10mmの石英粒や岩片も硬く、原岩組織が明瞭に残る。岩片間に分布する粘土層に系統性がない。下位の健岩部との境界は漸移的である	・全体的に硬質で、岩片間に分布する粘土層に系統性が認められず、原岩組織が明瞭に認められる。また、下位の健岩部との境界が漸移的であることから破砕部ではないと判断し、記載を変更した。 ・厚さは真幅ではないため削除した	49.22	49.27	49.22~49.27m:上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。上位の破砕部に比べて硬質で、径2~10mmの石英粒や岩片も硬く、原岩組織が明瞭に残る。岩片間に分布する粘土層に系統性がない。下位の健岩部との境界は漸移的である。	
133	49.27	49.40	D 20~30° 割れ目が多く残留するが割れ目ぞいに風化・砂状化が進む	-	-	-	49.27	49.40	49.27~49.40m:D 20~30° 割れ目が多く残留するが割れ目ぞいに風化・砂状化が進む。	-	
134	49.40	51.94	CL 硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む。30°前後の割れ目が主体で、一部でこれに直交~斜交する40°前後の割れ目が分布。51.06m以深では風化と変質は軽微となる。硬さ「B」と堅硬な岩片も混入する。	-	-	-	48.40	51.94	49.40~51.94m:CL 硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む。30°前後の割れ目が主体で、一部でこれに直交~斜交する40°前後の割れ目が分布。51.06m以深では風化と変質は軽微となる。硬さ「B」と堅硬な岩片も混入する。	-	
135	-	-	-	49.45	49.45	傾斜45° 幅15mmのAp層を挟む	・周囲と異なる特徴を追記した	49.45	49.45	49.45m:傾斜45°で幅15mmのアブライト層を挟む。	-
136	51.06	51.94	割れ目や密着度が低い中着割れ目が多い、中着割れ目も褐色化している。	51.06	51.94	割れ目や密着度が低い中着割れ目が多い、中着割れ目も褐色化している。	・中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した	51.06	51.94	51.06~51.94m: 割れ目や密着度が低い潜在割れ目が多い。潜在割れ目も褐色化している。	-
137	-	-	-	50.12	50.15	傾斜50° 程度、幅1~2cmで岩片化した赤褐色部を伴う	・周囲と異なる特徴を追記した	50.12	50.15	50.12~50.15m:傾斜50°程度、幅10~20mmで岩片化した赤褐色部を伴う。	-
138	51.24	51.62	割れ目挟層物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目ぞいに1mm砂状化するものが多い。厚さに幅0.5~1m/mで密着した石英脈が分布。	51.24	51.62	割れ目挟層物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目ぞいに幅1mm砂状化するものが多い。厚さに幅0.5~1m/mで密着した石英脈が分布。	・断記の修正(乗層物→挟層物) ・1mmを幅1mmに適正化した	51.24	51.62	51.24~51.62m: 割れ目挟層物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目ぞいに幅1mm砂状化するものが多い。厚さに幅0.5~1mmで密着した石英脈が分布。	-
139	51.63	51.63	15° 割れ目ぞい厚さ10mm/mが砂状化	-	-	-	51.63	51.63	51.63m:15° 割れ目ぞい厚さ10mmが砂状化。	-	
140	51.94	52.72	D 著しく軟化するが原岩組織と割れ目は残留している。	-	-	-	51.94	52.72	51.94~52.72m:D 著しく軟化するが原岩組織と割れ目は残留している。	-	
141	52.16	52.16	23° 厚さ30m/mの軟質褐色粘土層、上端にマンガン伴う。	52.16	52.16	23° 厚さ30m/mの軟質褐色粘土層、上端にマンガン伴う。	・断記の修正(30→3)	52.16	52.16	52.16m:23° 厚さ30mの軟質褐色粘土層を挟む。上端にマンガン伴う。	-
142	52.32	52.50	硬さ「D」が主体。	-	-	-	52.32	52.50	52.32~52.50m:硬さ「D」が主体。	-	

H27-B-1 52.72~56.47m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由		報告書柱状図記事		
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか?	追加変更した情報が正しく転記されているか?		上端深度	下端深度	適正化すべき記事内容	
143	52.72	52.81	破砕帯(主せん断面52.81m)	破砕部(最新活動面52.81m) 下端の直線的な面	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した	52.72	52.81	●52.72~52.81m:破砕部 52.72~52.80m:粘土混じり岩片状部(H) 上端6°で直線的に、下端14°で波打って連続。径5~10mm岩片(硬さ「D」)と岩片間の幅1~2mm新灰。径2~5mm斑点状粘土部からなる。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ40~90mm。 ●52.80~52.81m:練混ぜり粘土状部(Hc-2) 上端4°で波打って、下端14°で直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒。径2~3mm粘土化岩片を10~20%含む。灰白色を呈する。幅17~10mm。
144	52.72	52.80	H 上端56°で直線的に、下端14°で波打って連続。φ5~10mm岩片(硬さ「D」)と岩片間の幅1~2mm新灰。径2~5mm斑点状粘土部からなる。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ40~90mm	H 上端56°で直線的に、下端14°で波打って連続。φ5~10mm岩片(硬さ「D」)と岩片間の幅1~2mm新灰。径2~5mm斑点状粘土部からなる。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ40~90mm。やや軟質。細粒部は新目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	・硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	52.72	52.81	
145	52.80	52.81	Hc-2 14°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2mm/m石英粒。φ2~3mm/m粘土化岩片を10~20%含む軟質練混ぜり粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ7~10mm	Hc-2 14°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2mm/m石英粒。φ2~3mm/m粘土化岩片を10~20%含む軟質練混ぜり粘土からなる(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ7~10mm	・表現の統一(ガウジ→Hc-2)に含んで表現 ・硬さを多く含むため破砕部内物質を変更した	52.80	52.81	
146	52.80	53.17	D -	D 変質し、軟質化している。30~50°程度の割れ目がみられる	・割れの修正(52.80m→52.81m) ・性状や割れ目について追記した	52.81	53.17	52.81~53.17m: D 変質し、軟質化している。30~50°程度の割れ目がみられる。
147	53.17	53.22	破砕帯(主せん断面53.17m)	破砕部(最新活動面53.17m)	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一	53.17	53.22	●53.17~53.22m:破砕部 53.17m:練混ぜり粘土状部(Hc-2) 上下端29°で直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒を10%程度含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 53.17~53.22m:粘土混じり岩片状部(H) 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続。径5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり全体に「粘土混じり岩片状」~「粘土質岩片状」を呈する。上端側はマンガン鉱染を伴ない黒褐色化する。色調は明褐色(7.5YR6/2)、厚さ2mm
148	53.17	53.17	Hc-2 29°で上下端とも直線的に連続。φ1~2mm/m石英粒を10%程度含む軟質練混ぜり粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR8/2)、厚さ2mm	Hc-2 29°で上下端とも直線的に連続。φ1~2mm/m石英粒を10%程度含む軟質練混ぜり粘土からなる(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR8/2)、厚さ2mm	・表現の統一(ガウジ→Hc-2)に含んで表現 ・硬さを多く含むため破砕部内物質を変更した	53.17	53.22	
149	53.17	53.22	H 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続。φ5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり全体に「粘土混じり岩片状」~「粘土質岩片状」を呈する。上端側はマンガン鉱染を伴ない黒褐色化する。色調は明褐色(7.5YR7/1)、厚さ40mm	H 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続。φ5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり全体に「粘土混じり岩片状」~「粘土質岩片状」を呈する。上端側はマンガン鉱染を伴ない黒褐色化する。色調は明褐色(7.5YR7/1)、厚さ40mm。 軟質で、含まれる細粒部は新目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	・粘土分がそれほど多くないため全体を「粘土混じり岩片状」に変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	53.17	53.22	
150	53.22	53.45	CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。	-	-	53.22	53.45	53.22~53.45m: CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。
151	53.22	53.45	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)D	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	53.22	53.45	(岩級区分欄)Dに含める
152	53.45	53.54	D 締った砂状を呈する。岩組織と一部の割れ目は残留。	-	-	53.45	53.54	53.45~53.54m: D 締った砂状を呈する。原岩組織と一部の割れ目は残留。
153	53.54	56.66	CL -	CL 30~50°程度の割れ目が主体	・割れ目の傾斜が周囲と異なる状況であるため追記した	53.54	56.66	53.54~56.66m: CL 傾斜30~50°の割れ目が主体となる。
154	53.87	54.10	石英が多く晶出し、φ10~20mm/斑点状~幅5~15mm/45~65°の脈状で分布する。	-	-	53.87	54.10	53.87~54.10m: 石英が多く晶出し、径10~20mm/斑点状~幅5~15mm/45~65°の脈状で分布する。
155	53.87	54.00	珪質でレンズ状の石英も分布する。	-	-	53.87	54.00	53.87~54.00m: 珪質でレンズ状の石英も分布する。
156	54.00	54.60	石英脈ないし、割れ目ぞいに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴ない黒褐色を帯びる。	-	-	54.00	54.60	54.00~54.60m: 石英脈ないし、割れ目ぞいに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴ない黒褐色を帯びる。
157	-	-	-	54.82 54.82	・周囲と異なる特徴を追記した	54.82	54.82	54.82m: 傾斜50°で幅2mm以下の黄褐色粘土を挟む。周辺は一部緑色化する。
158	-	-	-	55.00 55.00	・周囲と異なる特徴を追記した	55.00	55.00	55.00m: 傾斜50°で幅2mmのマンガンを挟む。
159	55.25	55.25	55°のシャープで直線的な割れ目を境とし、55.25m~56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土は殆んどはさまない。	55°のシャープで直線的な割れ目を境とし、55.25m~56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土は殆んどはさまない。 挟んでいるところが多い	・割れ目に挟入物を挟んでいるところが多いため変更した	55.25	55.25	55.25m: 55°のシャープで直線的な割れ目を境とし、55.25~56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土を挟んでいるところが多い。
160	56.43	56.47	35°~40°割れ目ぞいに軟化し、硬さ「D」を呈する。	-	-	56.43	56.47	56.43~56.47m: 35~40°割れ目ぞいに軟化し、硬さ「D」を呈する。

H27-B-1 56.66~61.38m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事						
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
		コア観察カードから正しく転記されているか?			追加変更した情報が正しく転記されているか?				適正化した記事内容			
161	56.60	56.84	D	風化で締った砂状化呈する。φ10~20mmの硬さ「D」の岩片が塊状に残留する。	-	-	-	56.66	56.84	56.66~56.84m:D 風化で締った砂状化呈する。径10~20mmの硬さ「D」の岩片が塊状に残留する。	-	
162	56.66	56.84	(岩線区分)D		56.66	56.84	(岩線区分)CL	区間長が50cm未満のため、周囲の岩線に含めた	56.66	56.84	(岩線区分)CLに含める	-
163	56.84	56.77	CL		-	-	-	56.84	56.77	56.84~56.77m:CL	-	
164	56.84	57.90	硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。57.30m以深では、割れ目ぞいに風化・砂状化が進む。	-	-	-	-	56.84	57.90	56.84~57.90m:硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。57.30m以深では、割れ目ぞいに風化・砂状化が進む。	-	
165	57.75	57.90	コアチューブ引上時に塊状コア化したものと推定される。	-	-	-	-	57.75	57.90	57.75~57.90m:コアチューブ引上時に塊状コア化したものと推定される。	-	
166	57.90	58.34	硬さ「C」岩片主体 2ヶ所に幅1~2mm石英脈が密着して分布 各割れ目ぞいに軽微なマンガン鉱染を受ける	57.90	58.34	硬さ「C」岩片主体 2ヶ所(57.96m, 45', 58.05m, 50')に幅1~2mm石英脈が密着して分布 各割れ目ぞいに軽微なマンガン鉱染を受ける	・具体的な深度を明記した	57.90	58.34	57.90~58.34m:硬さ「C」岩片主体。 57.96m及び58.05mにそれぞれ45', 30'で幅1~2mm石英脈が密着して分布。 各割れ目ぞいに軽微なマンガン鉱染を受ける。	-	
167	58.28	58.28	割れ目交差部周辺で砂状化	-	-	-	-	58.28	58.28	58.28m:割れ目交差部周辺で砂状化。	-	
168	58.34	58.77	硬さ「D」岩片主体 一部の割れ目ぞいで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。	-	-	-	-	58.34	58.77	58.34~58.77m:硬さ「D」岩片主体。 一部の割れ目ぞいで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。	-	
169	58.77	58.82	D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体。岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や粘土脈をはさんでいる。	58.77	58.82	D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体。岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈をはさんでいる。	・粘土脈の色調を追記した	58.77	58.82	58.77~58.82m:D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体。原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を挟んでいる。	-	
170	59.18	59.18	20'、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土はさむ	-	-	-	-	59.18	59.18	59.18m:20'、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土はさむ。	-	
171	59.28	59.48	割れ目は消滅する。(コアが乱れている)	59.28	59.48	割れ目は消滅する。(コアが乱れている)	・人為的なコアの擾乱部であることを追記した	59.28	59.48	59.28~59.48m:コアの擾乱により割れ目が消滅している。	-	
172	20.60	20.65	3本のほぼ平行な割れ目が55'前後で分布、砂や粘土薄層(厚0.5~1mm/m)はさむ	59.60	59.65	3本のほぼ平行な割れ目が55'前後で分布、砂や灰白色の粘土薄層(厚0.5~1mm/m)はさむ	・崩裂の修正(上端・下端深度) ・粘土薄層の色調を追記した	59.60	59.65	59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55'前後で分布、砂や灰白色の粘土薄層(厚0.5~1mm)はさむ。	-	
173	59.82	59.85	破砕帯(せせん断面59.85m)D-1	59.82	59.85	破砕帯(最新活動面59.85m)D-1 直線的な塊状の粗粒部	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・破砕帯名称を削除した ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した	59.82	59.85	●59.82~59.85m:破砕部 59.82~59.85m:粘土混じり岩片状部(H) 上端28'一部不明瞭で波打って、下端28'で直線的に連続。径2~5mm石英粒、径5~10mm粘土化岩片と粘土化した岩片間からなる組織。幅30mm。 59.85m:粘土状部(Hc-1) 上端28'、下端28'でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、塊状構造がみられる。幅5~7mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
174	59.82	59.85	H 上端28'一部不明瞭で波打って、下端28'で直線的に連続。 φ2~5mm/m石英粒、φ5~10mm/m粘土化岩片と岩片間は粘土化した「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにふい4色(7.5YR6/3)、厚さ30mm	59.82	59.85	H 上端28'一部不明瞭で波打って、下端28'で直線的に連続。 φ2~5mm/m石英粒、φ5~10mm/m粘土化岩片と岩片間は粘土化した「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにふい4色(7.5YR6/3)、厚さ30mm やや軟質。細粒部は割れ目に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	・硬軟、粗粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	59.82	59.85	●59.82~59.85m:破砕部 59.82~59.85m:粘土混じり岩片状部(H) 上端28'一部不明瞭で波打って、下端28'で直線的に連続。径2~5mm石英粒、径5~10mm粘土化岩片と粘土化した岩片間からなる組織。幅30mm。 59.85m:粘土状部(Hc-1) 上端28'、下端28'でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、塊状構造がみられる。幅5~7mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
175	59.85	59.85	Hc-1 28'で上下端とも直線的に連続。φ1~2mm/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰緑(7.5YR6/2)~灰白色(7.5YR8/1)で塊状模様を呈する。厚さ5~7mm/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない	59.85	59.85	Hc-1 28'で上下端とも直線的に連続。φ1~2mm/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰緑(7.5YR6/2)~灰白色(7.5YR8/1)で塊状模様を呈する。厚さ5~7mm/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない	・表現の統一(ガウジ→Hc-1)に含んで表現 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	59.85	59.85	●59.82~59.85m:破砕部 59.82~59.85m:粘土混じり岩片状部(H) 上端28'一部不明瞭で波打って、下端28'で直線的に連続。径2~5mm石英粒、径5~10mm粘土化岩片と粘土化した岩片間からなる組織。幅30mm。 59.85m:粘土状部(Hc-1) 上端28'、下端28'でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、塊状構造がみられる。幅5~7mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
176	59.85	60.99	CL 60.54m以深は割れ目ぞいに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。 60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体である。 前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を伴う。	59.85	60.99	CL 60.54m以深は割れ目ぞいに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。 60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体である。 前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を伴う。 60.32~60.46mの間は黄色味を帯びる。	・周囲と異なる特徴的な色調を追記した	59.85	60.99	59.85~60.99m:CL 60.54m以深は割れ目ぞいに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。 60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体である。 前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を伴う。 60.32~60.46mの間は黄色味を帯びる。	-	
177	60.99	61.38	CH 堅硬。割れ目に挟む物はさまない。	-	-	-	-	60.99	61.38	60.99~61.38m:CH 堅硬。割れ目に挟む物さまない。	-	
178	60.99	61.38	(岩線区分)CH	60.99	61.38	(岩線区分)CH	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩線に含めた	60.99	61.38	(岩線区分)CHに含める	-	

H27-B-1 61.38~68.60m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書状況記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	適正化した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
179	61.38	53.61	CM 上端部の61.38~61.42m間と62.82m以深は、割れ目ぞいに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	-	-	-	61.38	63.61	61.38~63.61m:CM 上端部の61.38~61.42m間と62.82m以深は、割れ目ぞいに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	-
180	62.53	62.57	互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが砂状化や粘土化による劣化は伴わない。	-	-	-	62.53	62.57	62.53~62.57m: 互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが、砂状化や粘土化による劣化は伴わない。	-
181	62.82	63.61	岩片は硬いが(硬さ「B」)、割れ目ぞいに幅2~10mm程度砂状~細かく片状化する。 粘土化部や粘土層ははさまない。	-	-	-	62.82	63.61	62.82~63.61m:岩片は硬いが(硬さ「B」)、割れ目ぞいに幅2~10mm程度砂状~細かく片状化する。粘土化部や粘土層ははさまない。	-
182	63.61	64.00	D 割れ目ぞいの風化が著しく進み砂状化する。φ10~60mm硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。一部で割れ目が残留している。	-	-	-	63.61	64.00	63.61~64.00m:D 割れ目ぞいの風化が著しく進み砂状化する。φ10~60mm硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。一部で割れ目が残留している。	-
183	63.90	63.94	60° 幅1~3mm右英脈が2条分布。	-	-	-	63.90	63.94	63.90~63.94m:60° 幅1~3mm石英脈が2条分布。	-
184	64.00	64.33	CL 50~60° と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部ではφ10mm程度に細かく岩片化する部分もある。	-	-	-	64.00	64.33	64.00~64.33m:CL 50~60° と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部ではφ10mm程度に細かく岩片化する部分もある。	-
185	64.00	64.33	(岩級区分欄)CL	64.00	64.33	(岩級区分欄)D	64.00	64.33	(岩級区分欄)Dに含める	-
186	64.33	66.07	CM 割れ目の多くは割れ目ぞいに薄く砂状化する。	-	-	-	64.33	66.07	64.33~66.07m:CM 割れ目の多くは割れ目ぞいに薄く砂状化する。	-
187	65.22	65.30	40° と70° 割れ目が交差し、幅10~20mmと風化砂状部が拡大している。またわずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも伴っている。	-	-	-	65.22	65.30	65.22~65.30m: 40° と70° 割れ目が交差し、幅10~20mmと風化砂状部が拡大している。また、わずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも伴っている。	-
188	65.90	65.90	φ20mmと大型な石英斑晶が晶出。	-	-	-	65.90	65.90	65.90m:φ20mmと大型な石英斑晶が晶出。	-
189	66.07	66.62	CL 風化した中着割れ目や密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの軽打で細片化する。	-	-	-	66.07	66.62	66.07~66.62m:CL 風化した中着割れ目や密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの軽打で細片化する。	-
190	66.62	67.14	D φ5~20mm硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。66.85m以深では岩級と割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白~淡黄色粘土も点在する。	-	-	-	66.62	67.14	66.62~67.14m:D φ5~20mm硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。66.85m以深では原岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白~淡黄色粘土も点在する。	-
191	-	-	-	66.97	66.97	傾斜55° 幅1~5mmの黄灰色粘土を挟む	66.97	66.97	66.97m:傾斜55° で幅1~5mmの黄灰色粘土を挟む。	-
192	67.14	67.27	CL 50° 割れ目ぞいに軟化が進む	-	-	-	67.14	67.27	67.14~67.27m:CL 50° 割れ目ぞいに軟化が進む。	-
193	67.14	67.27	(岩級区分欄)CL	67.14	67.27	(岩級区分欄)D	67.14	67.27	(岩級区分欄)Dに含める	-
194	67.27	67.80	CM 割れ目ぞいに砂状化するものが多い。67.40~67.47m間にφ5~10mmに砕け角礫状化する。	-	-	-	67.27	67.80	67.27~67.80m:CM 割れ目ぞいに砂状化するものが多い。67.40~67.47m:φ5~10mmに砕け角礫状化する。	-
195	67.80	67.93	D 50~60° 割れ目ぞいに砂状化し、φ10mm硬質岩片を含む砂礫状を呈する。	-	-	-	67.80	67.93	67.80~67.93m:D 50~60° 割れ目ぞいに砂状化し、φ10mm硬質岩片を含む砂礫状を呈する。	-
196	67.80	67.93	(岩級区分欄)D	67.80	67.93	(岩級区分欄)CL	67.80	67.93	(岩級区分欄)CLに含める	-
197	67.93	68.15	CL 45° 割れ目ぞいに薄い砂状化部をはさむ。	-	-	-	67.93	68.15	67.93~68.15m:CL 45° 割れ目ぞいに薄い砂状化部をはさむ。	-
198	68.15	68.60	CM 割れ目に挟在物は分布しない	-	-	-	68.15	68.60	68.15~68.60m:CM 割れ目に挟在物は分布しない。	-

H27-B-1 68.15~74.10m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか?	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)			適正化すべき記事内容		
199	68.15	68.60	(岩級区分欄)CL -	(岩級区分欄)CL -	-	68.15	68.60	(岩級区分欄)CLに含める	-
200	68.43	68.49	φ5~20mm/㎡礫状~片状に砕けているが砂や粘土は含まない。	φ5~20mm/㎡礫状~片状に砕けているが砂や粘土は含まない。	-	68.43	68.49	68.43~68.49m: コアチューブ引き上げ部の擾乱で、径5~20mm礫状~片状に砕けているが砂や粘土は含まない。	-
201	68.60	69.05	D 軟化著しい硬さ「E」であるが、岩組織や割れ目は明瞭に残留している。 上端の68.60~68.65mは砂状化を呈するが、これはコア引上げ時で生じた可能性が高い。	D 軟化著しい硬さ「E」であるが、岩組織や割れ目は明瞭に残留している。 上端の68.60~68.65mは砂状化を呈するが、これはコア引上げ時で生じた可能性が高い。 68.79~68.96m間は硬さDの硬質部を含む。 68.96~69.05mは風化著しく明黄褐色を呈する。	-	68.60	69.05	68.60~69.05m:D 軟化著しい硬さ「E」であるが、原岩組織や割れ目は明瞭に残留している。 68.60~68.65m:コアチューブ引き上げ部の擾乱で砂状化している。 68.79~68.96m間は硬さDの硬質部を含む。 68.96~69.05m:風化が著しく明黄褐色を呈する。	-
202	68.60	69.05	(岩級区分欄)D -	(岩級区分欄)CL -	-	68.60	69.05	(岩級区分欄)CLに含める	-
203	-	-	-	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)δランク	-	68.79	68.96	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)δランク	-
204	69.05	69.56	CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低い中着割れ目も多く含む。 割れ目ぞいに厚さ1mm/㎡程度と薄く砂状化することが多い。	CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低い潜在割れ目も多く含む。 割れ目ぞいに厚さ1mm/㎡程度と薄く砂状化することが多い。	-	69.05	69.56	69.05~69.56m:CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低い潜在割れ目も多く含む。 割れ目ぞいに厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。	-
205	69.07	69.07	厚さ2~3mm/㎡マンガンが脈状に分布	厚さ2~3mm/㎡マンガンが脈状に分布 幅3cm程度でマンガンが濃集する	-	69.07	69.10	69.07~69.10m:幅3cmでマンガンが濃集する。	-
206	69.56	69.70	D 少量の白色粘土細線を伴う。	-	-	69.56	69.70	69.56~69.70m:D 少量の白色粘土細線を伴う。	-
207	69.56	69.70	(岩級区分欄)D -	(岩級区分欄)CL -	-	69.56	69.70	(岩級区分欄)CLに含める	-
208	69.70	69.73	破砕帯(主せん断面69.70m)	破砕帯(最新活動面69.70m) 直線的な細粒部	-	69.70	69.73	●69.70~69.73m 破砕部 69.70m 粘土状部(Hc-1) 上下端55°で直線的に連続。軟質で、にぶい黄褐色を呈する。幅1mm。 69.70~69.73m:粘土混じり岩片状部(H) 上端55°で、下端57°で直線的に連続。径3~10mm硬さE(粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。やや硬質 全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.7/7.2)。厚さ3mm/㎡ 層理部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	-
209	69.70	69.70	Hc-1 55°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調はにぶい黄褐色(1.0/1.0)。厚さ1mm/㎡。	Hc-1 55°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調はにぶい黄褐色(1.0/1.0)。厚さ1mm/㎡。 幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無は不明。	-	69.70	69.70	「硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した」 「原記の修正(厚さの実測により、厚さ1mm≒23mmとした)」	-
210	69.70	69.73	H 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。φ3~10mm/㎡硬さE(粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。やや硬質 全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.7/7.2)。厚さ3mm/㎡	H 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。φ3~10mm/㎡硬さE(粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。やや硬質 全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.7/7.2)。厚さ3mm/㎡ 層理部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	-	69.70	69.73	「硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した」 「原記の修正(厚さの実測により、厚さ1mm≒23mmとした)」	-
211	69.73	74.10	CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。 硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物は殆んど分布しない。	-	-	69.73	74.10	69.73~74.10m:CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現するが、硬さ「C」区間では挟在物はほとんど分布しない。	-
212	70.06	70.09	45° 割れ目ぞいに風化で砂状化する。 70.43~71.27mの硬さ「C」のうち、70.49~70.59mではφ5mm/㎡の白濁化した長石が多い。70.59m以遠では少ない。	-	-	70.06	70.59	70.06~70.59m:45° 割れ目ぞいに風化で砂状化する。 70.43~71.27m:硬さ「C」のうち、70.49~70.59mでは径5mmの白濁化した長石が多い。70.59m以遠では少ない。	-
213	71.27	71.60	45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。	-	-	71.27	71.60	71.27~71.60m: 45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。	-
214	71.37	71.50	φ10mm前後の大型の石英斑晶が点在。 岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。	-	-	71.37	71.50	71.37~71.50m: 径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。 岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。	-
215	-	-	-	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	-	71.37	71.50	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	-
216	71.88	71.88	0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。	-	-	71.88	71.88	71.88m:0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。	-
217	72.10	72.74	硬さ「C」区間では割れ目挟在物は殆んど分布しない。 長石の一部は白濁化する。	-	-	72.10	72.74	72.10~72.74m: 硬さ「C」区間では割れ目挟在物はほとんど分布しない。長石の一部は白濁化する。	-
218	72.74	74.10	硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含まれている。割れ目ぞいに風化、砂状化することがある。	-	-	72.74	74.10	72.74~74.10m: 硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含まれている。 割れ目ぞいに風化、砂状化することがある。	-

H27-B-1 73.35~75.57m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を書いた記事	報告書柱状図記事	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)				記事を削除・変更・追記した理由	上端深度
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
219	73.35	73.38	厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。原岩組織は残留している。	73.35	73.38	厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。変質している。原岩組織は残留している。	- 変質の状況を追記した。	73.35	73.38	73.35~73.38m: 厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。変質している。原岩組織は残留している。
220	73.85	73.76	30°と60°の割れ目が交差し、径10~50mmの岩片状コアを呈する。	-	-	-		73.85	73.76	73.65~73.76m: 30°と60°の割れ目が交差し、径10~50mmの岩片状コアを呈する。
221	74.10	74.36	CM	-	-	-		74.10	74.36	74.10~74.36m: CM
222	74.10	74.36	(岩線区分) CM	74.10	74.36	(岩線区分) CL	- 区間長が50cm未満のため、周囲の岩線に含めた。	74.10	74.36	(岩線区分) CLに含める
223	74.36	74.50	破砕帯(主せん断面74.40m)	74.36	74.50	破砕部(最新活動部74.40m) 連続する細粒部	- 用語の統一(破砕帯→破砕部) - 最新活動面という用語に統一 - 最新活動面の性状を追記した。			
224	74.36	74.40	Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5m/m岩片を約10%含む軟弱な「硬質砂状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ0~30m/m	74.36	74.40	Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5m/m岩片を約10%含む軟弱な「硬質砂状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ0~30m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。含まれる細粒部は網目状に分布。	- 砂分を多く含むため、硬質砂状に変更した。 - 細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。			
225	74.40	74.41	He-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)厚さ7m/m	74.40	74.41	He-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)厚さ7m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	- 表現の統一(ガウジ→He-1)に含んで表現 - 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。	74.36	74.50	● 74.36~74.50m: 破砕部 74.36~74.40m: 硬質砂状部(Hb) 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5mm岩片を約10%含む。にぶい黄褐色を呈する。幅0~30mm。 74.40~74.41m: 粘土状部(He-1) 上端30°、下端30°でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色を呈する。幅7mm。 74.41~74.50m: 硬質砂状部(Hb) 上端30°で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む。にぶい黄褐色を呈する。幅75mm以上。
226	74.41	74.50	Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.50m以深が掘削時にバラけたコアのため位置不明。 φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5~30m/m岩片を10~20%含む軟弱な「硬質粘土状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ75m/m以上	74.41	74.50	Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.50m以深が掘削時にバラけたコアのため位置不明。 φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5~30m/m岩片を10~20%含む軟弱な「硬質砂状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ75m/m以上 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明瞭	- 砂分を多く含むため、硬質砂状に変更した。 - 細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。			
227	74.50	75.57	D	-	-	-		74.50	75.57	74.50~75.57m: D
228	74.50	75.00	硬状コアで採取され、割れ目状況など不明	74.50	75.00	コアチューブ引き上げ部周辺で硬状コアで採取され、割れ目状況など不明。		74.50	75.00	74.50~75.00m: コアチューブ引き上げ部周辺で硬状コアで採取され、割れ目状況など不明。
229	75.00	75.57	岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。	-	-	-		75.00	75.57	75.00~75.57m: 原岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。

H27-B-1 75.57~78.43m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事				
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	適正化した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
230	75.57	76.00	75.57	76.00	破砕帯(主せん断面75.73m) 破砕帯(最新活動面75.73m) 最も直線的な細粒部の下端	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した	75.57	76.00	●75.57~76.00m:破砕部 75.57~75.71m:粘土混じり岩片状部(H) 上端不明瞭ながら25°で、下端68°で波打って連続。径5~20mm岩片からなり、岩片間は粘土化~砂状化する「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄褐色(10YR6/2)、厚さ90~120m/m。 75.71~75.73m:塊混じり粘土状部(Hc-2) 上端68°で波打って、下端68°で直線的に連続。軟質で、径1~3mm石英粒と径3mm岩片を5~10%含む。灰褐色を呈する。幅10~12mm。 75.73~75.93m:塊質粘土状部(Hc) 上端68°で直線的、下端64°で波打って連続。硬質で、径2~4mm石英粒、径5~10mm岩片を10~15%含む。石英粒は直線的なせん断面方向に配列している。明褐色~灰褐色を呈する。幅55mm。 75.93~76.00m:粘土混じり~粘土質岩片状部(Hg) 上端64°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土からなる。明褐色を呈する。幅60mm以上。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
231	75.57	75.71	75.57	75.71	Hj 上端は不明瞭ながら25°で、下端68°で波打って連続。径5~20mm岩片からなり、岩片間は粘土化~砂状化する「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄褐色(10YR6/2)、厚さ90~120m/m	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	75.57	75.71		
232	75.71	75.73	75.71	75.73	Hc-2 68°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径1~3m/m石英粒と径3m/m岩片を5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(5YR6/2)、厚さ10~12m/m	・表現の統一(ガウジ→Hc-2に含んで表現) ・径を含むため塊混じり粘土状に変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	75.57	76.00		
233	75.73	75.93	75.73	75.93	Hb 上端68°で直線的、下端64°で波打って連続。径2~4m/m石英粒、径5~10m/m岩片を10~15%含む半固結状の塊質粘土状を呈する。石英粒は主せん断面方向に配列している。色調は明褐色(5YR7/2)~灰褐色(5YR5/2)、厚さ55m/m	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・用語の統一(半固結状→硬質) ・主せん断面を直線的なせん断面に変更した	75.57	76.00		
234	75.93	76.00	75.93	76.00	Hj 上端は64°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。径5~10m/m岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり~粘土質岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ60m/m以上	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	75.57	76.00		
235	76.00	76.91	-	-	D 硬さ「C」の径5~20mm岩片と結った砂状からなり、全体的には結った砂塊状を呈する。		76.00	76.91	76.00~76.91m:D 硬さ「C」の径5~20mm岩片と結った砂状からなり、全体的には結った砂塊状を呈する。	
236	76.54	76.70	-	-	硬さ「C」の岩片部		76.54	76.70	76.54~76.70m:硬さ「C」の岩片部。	
237	-	-	76.54	76.70	(コアの硬さ欄)○ランク (コアの形状欄)△ランク (割れ目状態欄)△ランク (風化欄)△ランク (変質欄)△ランク	・記事欄の硬さの記載に合わせて追記した ・併せてコアの形状欄△ランク、割れ目状態欄△ランク、風化欄△ランク、変質欄△ランクを追記した	76.54	76.70	(コアの硬さ欄)○ランク (コアの形状欄)△ランク (割れ目状態欄)△ランク (風化欄)△ランク (変質欄)△ランク	
238	-	-	76.70	76.91	(割れ目状態欄)△ランク	・割れ目が認識できるため、割れ目状態欄△ランクとして追記した	76.70	76.91	(割れ目状態欄)△ランク	
239	76.70	76.91	-	-	岩片はわずかになり、代って径1~2mm軟質白色粘土土脈が多くなる。		76.70	76.91	76.70~76.91m: 岩片はわずかになり、代って径1~2mm軟質白色粘土土脈が多くなる。	
240	76.91	77.19	-	-	CL 割れ目沿いに砂状化するものもある。		76.91	77.19	76.91~77.19m:CL 割れ目沿いに砂状化するものもある。	
241	76.91	77.19	76.91	77.19	(岩紋区分欄)D	・区間長が90cm未満のため、周囲の岩紋に含めた	76.91	77.19	(岩紋区分欄)Dに含める	
242	-	-	77.10	77.10	傾斜75° 幅1mmの石英脈を伴う	・層間と異なる特徴を追記した	77.10	77.10	77.10m:傾斜75° 幅1mmの石英脈を伴う。	
243	77.19	78.00	-	-	D 著しく軟化するが、岩組織と割れ目の一部は残留する。 77.83~77.80m間はロッド引上げ時にコアが乱れ、塊状を呈している。		77.19	78.00	77.19~78.00m:D 著しく軟化するが、原岩組織と割れ目の一部は残留する。 77.83~77.80m:ロッド引上げ時にコアが乱れ、塊状を呈している。	
244	78.00	78.43	-	-	CL 60~80° 割れ目主体、これに斜~直交する30°も混入する 割れ目の一部は厚さ2~3m/mの砂をはさむ		78.00	78.43	78.00~78.43m:CL 60~80° 割れ目主体、これに斜~直交する30°も混入する。 割れ目の一部は厚さ2~3m/mの砂を挟む。	